



「健康コラム」名医が語る・お母さんへの手紙

薬のしんぶん

最近医療における誤解について解説してきましたが、今回はお薬についての誤解や疑問を説明していきます。

早めにカゼ薬を飲むと重くならない？

テレビでも「早めのカゼに……」などが流れていますが、医学的には正しくはありません。カゼの原因のほとんどはウイルスですが、たくさんの種類がありウイルス毎に症状が違います。鼻水だけ(いわゆる鼻カゼ)もあれば、鼻水、咳、高熱のカゼもあれば、気管支炎や肺炎を引き起こすウイルスもあります。カゼ薬はウイルスを殺す(＝治す)訳ではなく、症状を抑えるだけのものです。鼻カゼの時に薬を飲むと、他の症状が出ないために軽く済んだような気がするだけです。逆にインフルエンザでは、抗ウイルス薬以外のカゼ薬を早めに飲んだとしても、誰もがインフルエンザの経過をたどることになります。

カゼには抗生物質が有効？

抗生物質はカゼに効かない」と書くところ、ウソと思うかも知れません。抗生物質は細菌を殺す薬ですから、ウイルスによって起こるカゼには効果は無いのです。熱がありウイルスと細菌と

の区別がつかない場合や細菌感染の合併が疑われる時には、抗生物質を使うことがあります。もちろん、鼻水や咳を止める作用もありません。抗生物質を使うと下痢を起したり、安易な使い方をすると薬が効かない菌(耐性菌)が増えることが問題です。カゼや熱だからといって、抗生物質を使う必要はほとんどないことを理解してください。

前回のカゼ薬が効いたので同じ薬がほしい

カゼの症状は、毎回多少なりとも違うことがほとんどです。また、薬の効果はカゼの種類や時期によっても変わってきます。薬をもらって治らないので病院を変えたら、直ぐに治ったということになります。果たして薬が効いたのか、たまたま治る時期だったのか、その時期に使った薬は効果的と感じるものです。医師は、病気の経過や症状などを考慮して最適な薬を処方しているのです。市販の総合感冒薬の一部には、鼻水、咳、熱の薬がすべて混合されているものもあります。熱が無ければ解熱剤を使わないのに、解熱剤成分が含まれている薬を知らずに飲まれているかもしれないことに注意を払いましょう。

早く治したいので強い薬がほしい

子どもを薬にしてあげたいとか、保育園に預けて働いていると早く治したいと考えるのが親心です。しかしながら、医師が弱い薬を使っている、治療を遅らせることは考えられません。症状が改善しなければ薬の種類を変えたり、量を多少多めに投与するなどの工夫をしています。医師が言う強い薬とは強さではなく、より病気や症状に合った薬という言葉の綾だと考えてください。

カゼ薬を飲むと下痢をする？

カゼ薬だけで下痢を起こすことは、ほとんどありません。抗生物質を使用した場合には下痢をすることがあります。これは抗生物質によって腸内細菌に変化を起すためです。ウイルスの種類によっては、カゼの症状として嘔吐や下痢がみられることがあります。カゼの下痢の多くは、薬よりもウイルスによる場合が多いのです。抗生物質による下痢を心配するあまり、服用を中止してしまうことがあります。十分な治療ができないことは子どもにとってはデメリットです。薬の副作用と思われる場合でも、勝手に判断しないで医師の指示を仰ぐことが重要です。

まず大事なことは薬を理解することですが、子どもがどんな薬を飲んでいられるかを把握すること、親の義務と考えましょう。

小児科専門医 川村 和久

仙台市在住。医療法人社団かわむらこどもクリニック(仙台市)院長。日本一の小児科サイトを運営。「お母さんの不安・心配の解消」を開業理念として、様々な子育て支援活動に取り組んでいる。院内報、HP、医療相談、育児サークルなどのユニークな活動が評価され、第1回広報企画賞受賞(NPO HIS研究センター)。生活はっとモーニング(NHK)等で、活動が紹介。仙台小児科医会会長。宮城県小児科医会副会長。日本外来小児科学会理事。<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>